

糖尿病藥物療法

～注射薬編～

注射薬療法は大きく分けて2つ

▶インスリン療法

インスリンを直接体の外から補充することにより血糖値を下げる治療方法です。

▶GLP-1 受容体作動薬

食事をとると小腸からGLP-1（インスリンを出すよう呼びかける）というホルモンが分泌されます。このホルモンを体の外から補う注射薬です。

インスリン療法

▶ インスリンとは？

→膵臓から分泌されるホルモンで、血糖値を下げる作用がある

糖尿病で血糖値が高くなる理由は2つ

①インスリンの分泌量が足りない

②インスリンの効きが悪い

→この足りないインスリンを外から直接注射で補う事で、健康な人のインスリン分泌パターンに近づけます。

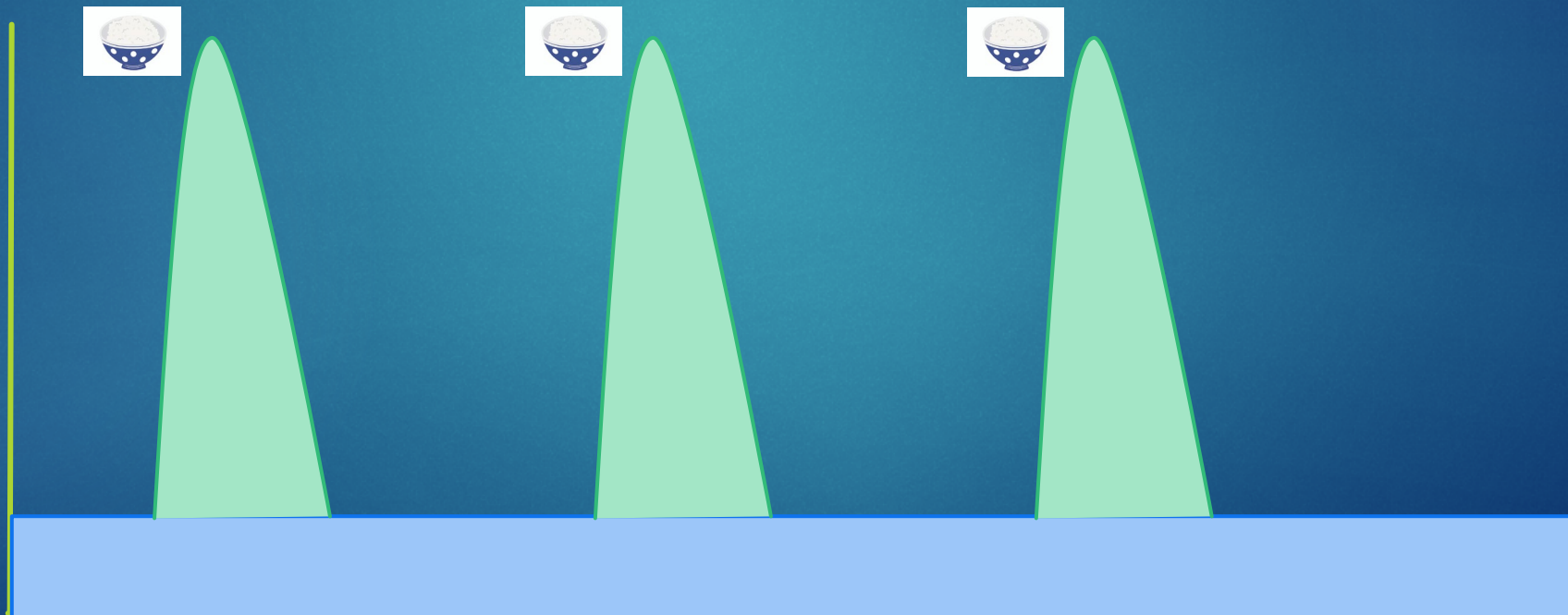
インスリンには、大きく2つに分類されます

基礎分泌

1日中少しずつ出ているインスリン

追加分泌

食後の血糖上昇を受け
短時間に大量に出るインスリン



インスリンを使わなければならない時

- 1型糖尿病
- 手術や重い感染症にかかっている糖尿病患者
- 意識障害を伴う高血糖状態が続いている
(糖尿病性ケトアシドーシス)
- 妊娠している糖尿病患者

など・・・

インスリンの種類

▶ 追加分泌を補う製剤

フィアスプ注、ルムジェブ注

アピドラ注、ノボラピッド注、ヒューマログ注など

ノボリンR注

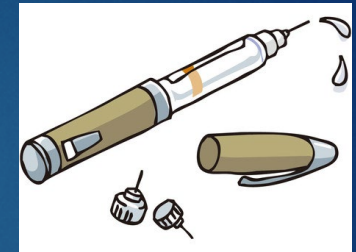
▶ 基礎分泌を補う製剤

トレシーバ注、ランタス注、レベミル注など

▶ 追加分泌と基礎分泌の両方を補う製剤

ライゾデグ配合注、ノボラピッド30ミックス注、70ミックス注

ノボリン30R注、ヒューマログミックス50注



GLP-1受容体作動薬

- ▶ 「毎日注射」と「週1回注射」するお薬があります。
- ▶ ボタンを押すと自動で注射されるタイプもあります。
- ▶ 使い始めは、嘔気、便秘、下痢などの胃腸症状に注意が必要
- ▶ 2型糖尿病の患者さんが治療の対象となります。

GLP-1受容体作動薬の種類

- ▶ 1日2回製剤

 - バイエッタ皮下注

- ▶ 1日1回製剤

 - ビクトーザ皮下注、リクスミア皮下注

- ▶ 週1回製剤

 - オゼンピック皮下注、トルリシティ皮下注、ビデュリオン皮下注

- ▶ インスリンとの混合製剤

 - ゾルトファイ配合注、ソリクア配合注



新薬の紹介（製造承認取得）

▶ マンジャロ皮下注（チルゼパチド）



インスリンの分泌を促進させる生体内ホルモン「GIP」と「GLP-1」が増える事で、血糖降下、食欲減退、体重増加抑制作用が得られる。

適応：2型糖尿病

用法・用量：週1回2.5mgから開始し、4週間投与後に週1回5mgに増量する。
効果不十分な場合は、4週間以上の間隔で、2.5mgずつ増量可能。
最大用量は週1回15mgまで。

副作用：悪心、嘔吐、下痢、便秘などの消化器症状が報告されています。